

会 議 録

☐ 全部記録    ☒ 要点記録

1	会 議 名	第 2 回 姫路市子ども読書活動推進計画（第 5 次）策定懇話会
2	開催日時	令和 7 年 1 0 月 1 日（水曜日） 1 4 時 0 0 分～1 6 時 0 0 分
3	開催場所	日本城郭研究センター 2 階 大会議室
4	出席者又は欠席者名	<u>出席者</u> 計 2 5 名 策定懇話会委員 1 0 名 姫路市子ども読書活動推進本部委員及び事務局 1 5 名
5	傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人なし
6	議題又は案件及び結論等	1 「姫路市子ども読書活動推進計画（第 5 次）」の修正案について 2 「姫路市子ども読書活動推進計画（第 5 次）」の策定スケジュールについて 3 その他
7	会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

## 第2回 姫路市子ども読書活動推進計画（第5次）策定懇話会 会議録

### 1 開会（司会：城内図書館長）

### 2 議事（進行 会長）

#### （1）議案第1号：姫路市子ども読書活動推進計画（第5次）修正案について

##### \*事務局

姫路市子ども読書活動推進計画案（第5次）修正案の説明  
（別紙1修正一覧表、別紙2新旧対照表のとおり）

##### \*会長

第1回の懇話会で出た意見を踏まえての計画修正案について説明があった。ご意見ご質問はないか。

##### \*委員

（意見無）

##### \*会長

第3章12頁基本目標で「成長に資するうえで」は「成長にとって」のほうがよくは無いか。「役割は」と最初にあるので中身の問題ではなく表現上のことだが、ご検討いただきたい。

他に意見が無ければ議事の1項目は以上とする。

#### （2）議案第2号：姫路市子ども読書活動推進計画（第5次）の策定スケジュールについて

##### \*事務局

別紙3「策定スケジュール」のように策定懇話会は、第2回が本日の10月1日となる。今後は、本日の内容を受けてパブリックコメントの準備を進めていく。パブリックコメントの予定は、12月から令和8年1月の予定である。第3回策定懇話会は、パブリックコメントの結果が集約される2月頃を予定している。議事としては、パブリックコメントの結果と推進計画第5次の最終案についての二つとする。

（別紙3策定スケジュール）

##### \*会長

ご意見はないか。

##### \*委員

50年以上子どもの読書に関することに関わってきて、姫路市が力を入れていることはわかるが、現状は、姫路の子どもは本を読まないままである。長年家庭文庫をやっているが少しの子どもしか来ない。思うことは多くあるが、この計画の実施に各課が協力して取り組んでほしい。

##### \*会長

ぜひ実効性のあるものという委員の意見であるが、関係課から何かあるか。

##### \*本部長

意見はごもっともであり、計画を実行性のあるものとして策定したい。不読率は国語力の低下につながる部分もあるので、できるだけことをやっていきたいと思うので今後も変わらずご協力のほどお願いしたい。

##### \*委員

絵本やおはなしに親しむことは、園でも大事にしている。担任たちにも、読み聞かせを大切にするよう伝えられている。そのような子どもたちへの日々の活動が、本計画の実行につながると思うのでこの計画のような取り組みを目指していきたい。

\* 会長

この計画が実効性あるものであるために、課題など関係課へ伝えたいことがあればお聞かせいただきたい。

\* 委員

長年関わってきた者として考えてみると、子どもの読書にとって家庭が最重要と思う。もう少し親の意識が高ければと願うが、現在では親の世代を含む大人が本を読まなくなっている。そして、子どもに本を読んでやる親も少なくなっている中で、子どもが一番集まる場所は学校であり、この頃は学校司書が導入されている。子どもの現状と子どもの本をよく知ってくれる学校司書の存在は大切だ。家庭文庫や学校図書館に良い本を並べても手渡す大人がいなければ子どもに届かない。しかし、現状は、学校司書は調べ学習の補助で精いっぱいと言っている。また、開館時間にも制限がある。そんな現状だが、子どもに楽しい本の世界を知ってほしい。幼児の時に、親の声で命のこもった言葉を聞くこと、耳から人の生きた言葉を聞くことは人間が生きていく根本である。機械で子どものお守をするようなことも増えている世の中である。学校では、学校司書の状況を改善してほしい。2校兼業ではなく専任とし、いつでも学校図書館が開館しており、子どもがいつでも行けるようにしていただきたい。図書館にはたくさん良い本があるが、図書館を利用する人も少ないようである。図書館と連携し、図書館の知識や豊富な本などを学校現場で活かし子どもを読書に繋いでいただきたい。子どもの読書について力を注ぐなら、子どもの身近で本への橋渡しをする大人を育成していただきたい。

\* 会長

司書教諭の配置については100%ということであるが、これは兼務であるか。

\* 本部委員

司書教諭については、一校につき一人以上配置している。学校司書は、一人当たり1.7校の兼務である。年3回以上の資質向上研修の計画があり、実施している。学校でのおはなし会など、連綿と受け継がれている子どもに本をつなぐ仕事は大切だと考えている。今後も、司書の資質向上に努めていく。

\* 会長

他に意見はあるか。

\* 委員

全国学力テストでの国語と読書量について、全国平均と姫路市の平均はどうなっているのか。

\* 本部委員

全国平均と姫路市の数値は検証中である。また、読書量調査は毎年継続されてあるものではないが、全国と姫路市の平均について検証中である。

\* 会長

全国の調査では、読書量について、家庭に本があるかどうかなど家庭環境に相関関係があることを指摘している。家庭に本が無くても、学校や公共施設などの活用で、どんな家庭の子どもであっても、読書に親しみ力が発揮できる環境を準備してやりたいと思う。

他に何かあるか。

\* 委員

二児の子育て中で、読書に関わっている。幼少期からゲーム機で遊ぶ子どもが増えているので、未就学児や小学生へのアプローチが有効だと思う。図書館へ案を出し、いくつか採用されたが、本日もう一つ伝えたいことがある。子どもの読書について、父母が幼少期に絵本を読んでやるのが一番大切だと思う。そのため、子どもが幼い時期から母親が一番行く機会の多い保健所で伝

えてもらうことが有効であり、母親に最初に伝えられるのは保健所だと思う。また、可能であれば未就学児に絵本のみに無料で引き換えられるクーポンを発行してほしい。無料であれば、本に興味のない親子も書店へ行き、そこから本への興味に広がる可能性があると思われる。書店の閉業問題にも少しは効果があるのではないかと思う。

\* 会長

保健所でも取り組みをされているが、いまの意見に対してどうであるか。

\* 本部委員

保健所でも取り組みを実施している。妊娠届け出時、4 か月までのこんにちは赤ちゃん訪問、7 か月児健診、1 歳 6 か月児健診などの機会に、絵本の読み聞かせの大切さを伝えるよう努めている。特に 7 か月児健康相談では、実際の読み聞かせを集団の場で実施し体験してもらっている。また、各健診会場には絵本を設置し待ち時間にも絵本に触れる機会を設けている。乳幼児期の絵本体験は大切であると考え、引き続き実施していきたい。

\* 委員

ブックスタートは実施しているか。

\* 会長

本を差し上げるということはやっていないのか。

\* 本部委員

以前は差し上げていたが、現在のブックスタートでは、親子で一緒に読む体験として実施している。

\* 会長

それは予算的な問題か。

\* 本部委員

予算の問題で絵本を差し上げることはできていない。

\* 会長

今後も取り組みを続け、姫路市は子どもに優しい街だということを明石市のようにアピールしていただきたい。

\* 委員

委員からたいへん具体的で良い意見が出たと思う。今回の意見がどのように活かされるのかお聞かせいただきたい。

\* 委員

娘たちには、2 冊もらったがどちらも既に持っている本だった。配布が再開されるのであれば、親子で選びたい。好きな本を選び手に取ることが幼少期にできれば、絵本に親しむきっかけになると思う。

\* 委員

選択できるのは大切であるし、心ある親御さんなら既に良い本は持っておられるだろうが、本屋で選ばせるのはどうかと思う。図書館の本の中から選ぶのであれば良いと思うが、本屋のラインナップはピンからキリまである。親自身に見る目があれば良いが、うっかりたいしたことの無い本に手を出されたらもったいない。図書館で選ばれた本が並んでいる中で、いろいろ見た上で、本屋で買われるなら良いと思う。

\* 委員

保育所の保育時間は、子どもによって差はあるが 8 時間から 12 時間にわたり、睡眠時間を引くと一日の大半を園で過ごしている。園では、保育の中でも絵本は大切なものであり、どんな絵本でも良いわけではないと考え、子どもが初めて絵本に出会う場として、毎日なるべく読み聞かせをしている。0 歳児からやっている。本の好きな子になるには、家庭が第一と考えてはいるが、様々な家庭がある中で、親子で、家庭でできる場合と、園で力をいれたほうがよい家庭がある。そういう場合は、まず子どもに絵本を好きになってもらい、その影響で親御さんが絵本に興味を持つことを期待して働きかけている。

\* 委員

長男が幼稚園の頃、園に落ち着きがなかったので保護者で検討したところ、絵本に注目し読み聞かせの活動を始めた。実際に始めると、書店に並んでいるものは奇抜なものが多く、図書館や園の本のほうが子どもが落ち着いて聞けるし、読み聞かせる大人も楽しめるものが多いと感じた。園でそういう絵本を聞いた子どもが、家庭で両親にその話をして、つながりができることも実感した。幼稚園や学校には、そういうつなげる役割をしてほしい。PTA 活動を長くやってきた経験者として、絵本は良いものだとの時代につないでいきたい。

\* 会長

中学校はどうか。

\* 委員

養護学校では、子どもは絵本が好きだと感じる。学校司書の方は、6 年目になるが、計画的に教室を回り隙間の時間にも来てくれている。それぞれの子どもの障害の度合いに合わせて、読み聞かせのペースなどを工夫してくれており、子どもたちも喜んでいる。このように子どものことをよく知ってくれている司書の方を継続して配置していただきたい。

\* 委員

中学校では、学校司書は掛け持ちの配置である。ご指摘のとおり、有効な活躍の余地はまだまだあると考える。何ができるのか研修なども含めて考えていただきたい。

\* 会長

研修についてもご意見をいただいた。計画修正案については、意見は無かったので今回で完了とする。

\* 本部長

パブリックコメントにかける前に、他にご意見をいただければと思うのでお願いしたい。

\* 会長

それはありがたいところである。一週間でよいかな。

\* 本部長

一週間とさせていただく。

\* 会長

委員の皆様は、議事の他にも意見があれば一週間をめどに事務局にお知らせください。

3 閉会（城内図書館長）